

茨城県土木部女性職員と「建女ひばり会」とのオンライン座談会 グループディスカッション報告書

日時 2021年11月12日(金) 14:00～15:00

場所 Zoom ミーティング(ブレイクアウトルーム)

参加者 32名(茨城県12名、建女ひばり会20名)

テーマ 私たちの未来予想図 ～あなたにとって快適な職場とは何ですか？～

内容

茨城県土木部女性職員の皆様と建女ひばり会会員との座談会も3回目になりました。毎回総勢30人以上の参加となっており、普段仕事上ではなかなか聞けない事や悩み等も女性同士、回を重ねる毎に打ち解け、今回も和気あいあいとした雰囲気で行う事が出来ました。

今回は「貴方にとって快適な職場って何？」とテーマを絞り皆様の意見やアイデアを快適というキーワードで話していただき、今後のひばり会の活動のヒントにしたいと考えました。

グループディスカッションの前に主催者から具体的な例題を提示し、その内容に沿った形でファシリテーターに進行を依頼。

例題は以下の3点。

- ①皆さんが今働いていて快適だと思う事・働きにくいと思う事、その解決方法があれば教えてください。
- ②快適だと思う男女間・年代間の認識のズレを感じた事がありますか。
- ③ソフト・ハード面で皆様が快適と思える職場の自慢があれば教えてください。

皆さんそれぞれの職場環境の中、当然様々な意見が出されました。

約1時間のグループディスカッションの結果、下記の6項目が主な内容となりました。快適に思うこと事や働きにくいと思う事、その改善策等について紹介します。

短い時間ではありましたが、雑談を交えながらの楽しい、中身の濃い時間をもつ事が出来ました。

今後も更に女性同士の交流を深め、建女ひばり会の活動を通して、建設業の魅力を発信し女性に選ばれる建設業を目指したいと考えています。

(1) 職場の人間関係について

①快適に思う事

- ・職場に実際工事現場に出ている先輩や女性の経営者がいるので仕事の進め方・困った時の相談を気軽にでき、結果会社にフォローしてもらえるので安心して働ける。
- ・会社の福利厚生も充実していて老若男女関係なく雰囲気の良い職場である。
- ・人事評価があり(年3回)所長と個人面談を行うため希望・改善点等を伝えやすい。
- ・施工管理の書類を作成するのが現場から帰ってきてからになるが、勉強にもなるのでお互いに手伝いながら進めると人間関係も良くなり快適につながっている。
- ・女性が多い職場で指導・相談がしやすい
- ・力仕事は男性にお願いできるし、サポートもあるので不便はない
- ・女性同士の子連れお泊り会を開催している。年一回でも二回でも顔を合わせ交流を深めている。

②働きにくいと思う事

- ・未経験のことでもすぐ誰かに聞けたらと思う。
 - ①.快適に思う事の見解の中に改善策のヒントがある。
- ・産休・育休の際、周りの人への負担があり休暇に入る前の業務の引継ぎも難しかった。
 - ①.快適に思う事の見解の中に改善策のヒントがある。
- ・今後責任ある仕事を任された際、周囲に迷惑をかけてしまうのではないかと不安を感じる
 - ①.快適に思う事の見解の中に改善策のヒントがある。

(2) 働き方改革について

①快適に思う事

- ・フレックスタイム制で時間をずらして出勤できる。
- ・時間単位年休はないが早く帰るなど融通がきく。
- ・時間外労働がなく休みも比較的取りやすく、人も足りないということもない。
- ・現場も週休2日になり快適のズレを感じない。
- ・1/2体制でテレワークとなったことでリモート授業を家で受ける子供に対応できた。WEB会議や電子決済等を活用すればテレワークは快適で、男女問わず子育て中の者にとって有用。(メールチェックを休日の深夜に行う事も可能)
- ・現場の人は残業が当たり前という雰囲気、早く帰ってきてもらって打合せをしたくても言いづらい。現場の情報等LINEで共有してもらえるようになり助かっている。会社に子育て中の人もいますので少しずつ改善されている。

②働きにくいと思う事

- ・今月から時間単位年休を使えるようになったが、打合せが入ったりするので取得が難しい。
- ・時間単位年休を取っても仕事量は変わらない。取得の際、周囲の事前周知は必要。
- ・書類作成の為に残業で遅くなる時は一度帰宅して家事を済ませ会社に戻り仕事をしてきた。
- ・時間外労働が増え家庭を持った時、定時に帰れるか心配。経営側から残業の軽減を視野に入れ、社員が協力し合って残業にならないよう配慮している。
- ・生理休暇の申請について就業規則にはあるが、取得する人はいない。
- ・職場は女性一人で申請しにくい。詮索されないよう頭痛等の理由にしてはどうか。
- ・生理休暇は認められているが現状は通常の年休で取得している。男性上司に生理休暇をどう伝えるか。カードなどを作成し口頭でない方法があればよいと思う。

<全体的なまとめ>

働き方改革も頭の片隅では分かっているが、なかなか染みついた習慣というのは抜けないので、こういう場に出た意見をフィードバックし、業界全体で働き方改革に取り組んでいく必要がある。

(3) 女性技術者を増やすには

- ①建設業界は「危険・泥まみれ・汗まみれ」で現場作業をするイメージに偏っていて女性に敬遠されがち
- ・ICT 施工が導入されスマートに、より快適な職場になってきているがその点がアピールされていないのが残念である。
 - ・ICT 施工とは何なのか・何の役に立つのかを官民あげて勉強会を始め、その連携が業者の ICT の挑戦につながり普及につながるのではないか。
 - ・女性が建設業で働く姿を目に当たりに見てもらおう様々な企画が必要である(女性だけのドローン講習会を開催し、女性が操作している姿を見てもらおう)。
 - ・女性技術者の人数が圧倒的に多い女性職員の皆様に男性職員とは別のユニフォームを着ていただき、動く広告塔として発信していただきたい。
 - ・女性技術者を増やす取組は官民あげてのテーマであり、今後更なる女性の入職者が増えるような期待が持てる現在の状況はとても良いと思う。
 - ・入職のきっかけが小学 5 年生の時、重機の展示会に行っかっこいいと思ったこと、やはり様々な建設業のかっこ良さ、又地図に残るやりがいの発信について時間をかけてすべきだと思う。
- ②出産・育児・子育てしながら仕事が続けられる業界にする為には
- ・制度を整える必要がある(完全週休二日制、長時間勤務からの解放)。
 - ・技術者の複数制が認められれば女性技術者が責任ある仕事を諦めずに済むのではないか。
 - ・「制度が充実しているのは公務員だから。この業界とは別の話」と終わらせず、男女問わず「快適な職場」づくりに繋げたい。
- ③ひばり会の今後の活動について
- ・女性の技術者が増えているのでこのような意見交換会は大事で今後も続けたい。
 - ・ひばり会の方からも女性の考えを県や各社に発信していきたい。
 - ・このようなグループディスカッションを若い人同士でやれたらと思う。

(4) 出産・育児・子育てについて

- ①快適に思う事
- ・結婚・出産を控えて今後の不安・心配は、今の会社ならば女性も多く不安はない。きっとその人その人によって対応してもらえるので今の環境で仕事を続けていきたい。
 - ・子育て真っ只中でフルに働いており、子供の都合で突然休む時にお客様に打合せの予定を変更してもらおうのが申し訳ないと思う。でも会社では代わりの人に打合せを頼むなどフォロー体制が整っているので助かっている。子育て中に子供の体調の悪化に対応する為、有給休暇に加え看護休暇(子供の就学まで・5 日間)を支給し突発的な事情にも対応している。
 - ・職場に女性が多く、育休を取っている方もいて将来的に自分もこんな風に働くんだという未来像が見える。実際その状況になった時に相談できる方がいるのも有難い。
 - ・子供の送迎や体調が悪い時は祖父母に頼み担当している現場を優先させていた。自分が現場の仕切りが出来るようになると、プライベートと仕事の工程の調整が可能になった。
 - ・ひばり会会員、県職員共に子育て中であることに配慮した勤務状況であり、その点では比較的恵まれている。(産休復帰後の 6 時間勤務、4 時 30 分退社、時間単位での有給休暇取得、残業の免除)
- ②働きにくいと思う事
- ・子供が小さい時、5 分 10 分の遅刻に時間休の有給休暇が取れると育児中の女性は助かると思う。時間単位年休の導入を広める。
 - ・妊娠初期の体調(つわり・切迫流産等)の管理の不安がある。まずお腹の赤ちゃんを第一に考え、休もうという勇気が大事。休むことが出来る環境を築いていかななくてはならない。
 - ・竣工検査と子供の行事が重なった時の対応に苦慮してしまう。通常の勤務でも子供の行事で欠勤する場合に会社に迷惑をかける事を心配する。中間検査・竣工検査時に内容の分かる技術者の代役を許可

してもらおう。

- ・小学校の下校時間に合わせて帰宅させて貰う際、業務は次の日に持ち越せるが、電話応対については他の人に負担をかけてしまう。

(5) 男女格差について

①快適に思う事

- ・女性がいる現場は朗らかな雰囲気になり、男性も変わってくる。多くの女性に入社してもらうにはどうしたらよいか考えている。
- ・女性である事で現場に出ると珍しがられるが、業者さんにも現場の事を教えてもらいながら進める事が出来ているので働きやすいと感じている。

②働きにくいと思う事

- ・女性が重機の免許取得を考えた時、周囲の反応に取得を躊躇してしまう。
- ・建設業は男性が多く、年齢層が高いのでコミュニケーションを取るのが難しい。
- ・掃除・ゴミ集めは従来は女性の役割だと思われていた。・煙草の喫煙状況(副流煙)の問題。
- ・ゴミ集めもゴミの分別を徹底する上で男女の別なく取り組むようになった。
- ・ある程度の立場の人が掃除の日を決めて男女関係なく掃除をしている。若い男性ほど抵抗がない。
- ・美化委員会を作り職場全体から委員を出して、日にちや曜日を決めて掃除をしている。男性が多い職場だが協力してくれる。
- ・職場環境において整理整頓が基本である。現場代理人がしっかりしている所は現場がきれいである。それは代理人が汚い現場は品質管理に重大な影響を及ぼす事を熟知しているから。煙草もなかなか言えなかったが、外に喫煙所を設け室内で吸わない状況になってきた。
- ・男性の方が長時間勤務が可能であり、女性が不在の残業時間帯に物事が決定する事がある。
- ・現場では雑用は女性の仕事だと思いう風潮がある。今後女性技術者が増えれば意識に変化が生まれると思う。

(6) 快適トイレの設置について

①快適に思う事

- ・男性社会の職場であり更衣室や休憩室が少ないが、自分の居場所は確保している。快適トイレもあり不満はない。
- ・シャワールーム・トイレを新設し洗濯機も設置したので、汚れ物を持ち帰らずに済むようになった。

②働きにくいと思う事

- ・女性トイレが1か所しかなく不便。休憩場所も1か所しかなく自分の机で昼食をとっている。
- ・快適トイレは清潔でなければ快適とはいえない。・快適トイレの設計の時点でトイレの清掃業者費用が組み込まれているのがベストです。・男性の使用時に不衛生になりがちなので貼り紙や直接注意をしている。後輩や若い子のために自分が率先して声を上げている。
- ・快適トイレの位置が男性社員の居る事務所前に設置されると行きにくい。